

論文内容の要旨

報告番号	空欄	氏名	野口 武俊
Vaginal fluid pH and buffer capacity for predicting false preterm labor in Japanese women			
日本人女性における切迫早産予測のための膣分泌物pHと膣分泌物緩衝能に関する研究			

論文内容の要旨

妊婦の5～10%が早産となる。早産による児の発達障害や、高額な医療費問題が存在するため、早産を予防することは極めて重要である。しかし現時点では早産を早期に発見する優れたパラメータは存在しない。口腔内細菌叢により、唾液のpHが食事により容易に低下する（緩衝能がない）患者は齲歯に罹患しやすいという関係が知られていることから、膣内細菌叢による膣分泌物緩衝能の有無が早産に関係するとの仮説を立てた。今回、膣分泌物pHと膣分泌物緩衝能が早産予知のための有効で安価な新規バイオマーカーとなりうるかどうか検討した。

目的：膣分泌物pHと膣分泌物緩衝能測定が、切迫早産や早産を予知できるかどうか検討した。

方法：2009年1月1日から2012年3月31日の間で、奈良県立医科大学附属病院で、妊娠22週～36週の患者の2つの集団を前向きコホート研究に登録した。妊娠37週未満に子宮収縮を認める切迫早産患者集団（切迫早産群）と、対照として健常妊婦（対照群）に登録した。これらの患者の膣分泌物pHと膣分泌物緩衝能を測定し比較した。

結果：登録した237人の患者のうち、48人（20.3%）は切迫早産群に、189人（79.7%）は対照群に含まれた。対照群と比較して切迫早産群の膣分泌物pH値はより高値で（ $p < 0.001$ ）、膣分泌物緩衝能はより低値（ $P=0.0135$ ）であった。実際に早産に至った切迫早産群と、早産に至らなかった切迫早産群において、膣分泌物pH値も膣分泌物緩衝能も有意な差は認められなかった。膣分泌物pHのROCカーブと膣分泌物緩衝能のROCカーブから、切迫早産群と対照群を区別できるが、切迫早産群の中から実際に早産に至る患者と早産に至らない患者は区別することができなかった。

結論：膣分泌物pHと膣分泌物緩衝能は切迫早産を診断するのに有用である可能性があるが、診断基準を決めるには更なる研究が必要である。